

今回は、第6回さくら塾（大野正博先生）の報告です。

◇ 朝日大学法学部の大野正博先生のお話をうかがいました！

日 程： 2020年12月4日（金）
講 師： 大野正博先生 朝日大学法学部教授
会 場： 関高等学校
演 題： 「法学入門 昔話・桃太郎を法学で読み解く」

◇ 講演の概要

誰もが知っている昔話、桃太郎の一件を、法学の立場から見たらどうなるか。家屋侵入、遺失物横領、窃盗や強盗、脅迫などの思わぬ犯罪と関わり、最後は予想もしない展開に…

今回のセミナーでは、桃太郎を事例に、とっつきにくいと考えがちな法学のお話をわかりやすく解説していただきました。さらに、大学で学ぶ法学の実際や社会に出てからどのように役立つかなどのお話、高校と大学での学びの共通性と違い、高校生として日々の学習や生活でどのようなことを心がけるべきかなど、貴重なお話をうかがうことができました。

◇ 生徒の感想

◆今日のセミナーでは、これまで全く知らなかった法学に少し触れることができた。桃太郎を法学の観点で分析することは新鮮でとても興味深かったし、何より最後に桃太郎も鬼も人間でないので法は適用できないと言われたことにはとても驚いた。

自分は法学に関しては全くの門外漢だったけれど、最後まで楽しく聴けることのできた時間だった。

◆桃太郎を違う視点から見ると、様々な捉え方があることを知り面白かった。法学部は勉強がとても大変そうだ。しかし高校の授業とは違い、正解がない問題に対してみんなで考えいろんな人と意見でき楽しそうだなと思った。

司法試験に合格したからといって生涯安泰とはならない時代が変わったと聞き、恐ろしさを感じた。今の人間に求められている力は、指示通りやりこなすことでなく、様々な視点からその問題を解決することであることを学んだ。私の将来の夢は看護師になることなので、何か問題があれば、今までのやり方を真似するのではなく、自分なりに様々な視点から考え、より良い解決方法を見つけられるような人間になりたいと思う。

今回、大野先生のお話をうかがって、普段から時事問題に関心を持つ重要性を知った。私は新聞をあまり読まないで、テレビ欄だけでなく、看護に関係することや、日本の政治、世界の出来事についての記事も当たり前のように読みたい。



◆この講演に参加するまでは、弁護士とは、起こった事件や事柄などを覚えた法律の内容を当てはめて解決するものばかり考えていました。しかし、法律を覚えること自体はそれほど重点はなく、法律内容とは外れた様々な事柄に、現実的かつ効率的でより多くの人の幸福が得られる最適解を自分自身で導き出すことこそが弁護士に求められていることが分かりました。また、物事を多角的に思考することや、相手の考えにただ同調するのではなく、そこから発展させ自分にしか出せない価値ある考えを創出することの必要性を学ぶことが出来ました。

このことは弁護士だけでなく、未来を生きていく上で私達にも求められている能力です。私は、これまで、「人と違う意見を持つことは自分が受け入れられていないようで怖い」と思っていました。しかし、現代は正しいか否かはすぐに移り変わる世の中になっていると聞きます。間違ふことを恐れず、間違いから学び、社会に寄り添った最適解を自分自身でも導き出していきたいと思います。今回の講演会の場を用意してくださり、ありがとうございました。

◆僕は法学部で具体的にどんな内容を学習するのか知りたいと思っていて、今日の話聞いて法学部で学ぶ内容だけでなく、これからの社会に必要な力や大学でつけることができる力を学ぶことができすぎてすごくよかったです。先生から、民間企業で働く場合に法律の知識があると良いと聞いたので、次回お話をうかがう機会があれば、具体的にどの分野の法律の知識を大学時代に学ぶといいか、法学部でしか学べないことはどんなことか知りたいと思いました。

◆まず、桃太郎を法で読み解くということに特化した話をされるのかと思っていたのですが、大学、さらには社会に出てから大事な考え方のほうが印象に残りました。

煙突が何本に見えるか、という話をされた時にぼくはいろいろと思考を巡らせても4本にしか見えなかったのですが、角度によって2本にも3本にも見えることがわかって、自分の物の見方はまだまだ未熟であると思い知りました。これから法学系の仕事につき人のために働けるように考え方を柔軟にしていき、またそのために新聞で情報をたくさん得ていきたいと思います。今日はありがとうございました。